

困難を有する子ども・若者への支援（不登校・ひきこもり編）

子ども・若者をめぐる環境が急速に変化している中で、県内の若年無業者（15～34歳）は約8,000人（2022（令和4）年度）、不登校児童生徒数は小学校が1,721人、中学校が3,059人、高等学校が1,203人、高校中途退学者数が786人、中学校卒業時進路未決定者数が201人（いずれも2023（令和5）年度）、全国のみきこもり（15～39歳）の出現率は2.05%（2022（令和4）年度）となっており、子ども・若者が抱える様々な困難や課題が重なり合っ、ニート、不登校、高校中退、ひきこもりなどの形態で表出している現状があります。

そこで、増加傾向が続く小・中・高校生の不登校・ひきこもりに対する支援ガイドを作成するため、不登校を経験した高校生と我が子の不登校・ひきこもりを経験した親御さんを対象にWebでアンケート調査を実施しました。その結果、不登校による本人の苦境、見通しが立たない不安や相談・支援につながらない孤独・孤立を感じる親御さんなど、さまざまな体験談が寄せられました。

本人の中には、抱えている不安にどうしたらいいのかわからない、どうしたいのかわからないで心を閉ざしてしまう方もいます。親御さんの中には、苦しむ我が子を前に必死に支援先を求めている方もいました。困難な状況が改善されないまま義務教育の終了や高校中退で学校や公的機関等の支援から離れ、社会とのつながりが切れてひきこもり状態が長期化する場合も考えられます。

私たち支援者は、こうした不登校・ひきこもり状態の当事者にどのように寄り添っていったらいいのだろうか、支援のアプローチはどのように考えたらいいのだろうか、地域のさまざまな社会資源の活用や支援の連携をどのように展開したらいいのだろうか、考えるべき支援の課題は尽きません。

このガイドでは、当事者にとっての安心・安全な居場所、支援のアプローチ、地域の社会資源を活用した支援連携などの取組例を紹介し、不登校・ひきこもり状態の支援に関係する情報をまとめました。

